【今年の年間目標】

御霊に導かれて進もう／神の子供として成長する

●使徒の働き１９章においてパウロがエペソで伝道を開始した時、彼はイエスを既に信じていた数人の弟子に出会いました。パウロは彼らに「信じた時、聖霊を受けましたか。」と質問した際、彼らは「いいえ、聖霊の与えられることは、聞きもしませんでした。」と答えました。聖書を一人一冊ずつ持っている私たちは、聖霊について多くのことを読んでいるはずなのですが、もしかしたらエペソの信者達のように聖霊のお働きに関しても「知らない」あるいは「よく分からない」「あまり聞いたことがない」という所にいるかも知れません。でも心配ご無用。「今いる所」から始めましょう。

●さて今年の年間目標としてガラテヤ５：２５の一部分である「御霊に導かれて進もう」を掲げたいと思います。副題として「神の子供として成長する」としましたが、その理由は御霊の働きと神の子供たちの成長とが密接に関わっているからです。★第一にクリスチャンはそもそも御霊によって初めて自分が神の子供とされたと自覚できるのです。★第二に、主イエスは御霊を指して「助け主（新改訳／口語訳）」「弁護者（新共同訳）」と呼びましたが、現代風に言えば御霊はクリスチャン一人一人に遣わされる「家庭教師」ということなのです。常に傍らで教え諭し、行くべき道を教え、助言し、失敗しても忍耐強く励まして私たちを成長へと導くのが聖霊の任務なのです。★第三に御霊は神の子供たちが与えられている使命に生き、主の御心を果たすために賜物と能力を与え、必要な力を注ぎ、宣教の戦略を導びかれます。

●御霊の働きこそクリスチャン生活の最大の秘密です。今まで意識して来なかったかも知れませんが、クリスチャンであるあなたは既に御霊からの感化を受けて歩んでいるのです。私たちも世々の聖徒たちが体験し、証ししてきた御霊の働きを知り、御霊に導かれて歩んで行こうではありませんか。■

【用語の解説】
新改訳聖書や新共同訳聖書で「聖霊（せいれい）」と訳されているのはギリシャ語の原文でプニューマ（霊）とハギオン（聖）が組み合わさって出てくる所です。一方、新改訳で「御霊（みたま）」と訳し、新共同訳で（“霊”）と括弧付きで表記しているところは単にプニューマが使われていながら文脈で明らかに「聖霊」を指している箇所です。他の部分は「霊」と訳されています。

【今年の暗唱聖句】

第一ペテロ1：15

「あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行ないにおいて聖なるものとされなさい。」

神の中心的なご性質こそ「聖」です。ですから当然、神の子供とされた私たちも、神に似た者となるよう、成長が期待されるのです。神の「聖」のもっともよき模範こそはイエス・キリストです。主イエスの聖さは、取税人や遊女たちと交わっても聖さを失いませんでした。私たちもそのようなダイナミックな聖さを身につけ、「あらゆる行い」において「聖なるもの」となることを目指しましょう。

ローマ7:15

「私には、自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行なっているからです。」

イエスを信じた時から私たちのからだは「聖霊の宮」となりましたが聖霊が願われることと、私たちの罪深いからだが望むことが真っ向から対立しているため、クリスチャンは内面で葛藤するようになります。私たち自身の霊は、御霊が願われることに「アーメン、その通りです！」と同意するものの、いざ実行しようとすると、ものすごい抵抗を受けるのです。ここで常に思い出すべき大切な真理があります。つまり、肉の力で神に従い切ることはできない、と言うことです。

ローマ8：13

「もし肉に従って生きるならあなたがたは死ぬのです。しかしもし御霊によって、からだの行ないを殺すならあなたがたは生きるのです。」

では誰が罪の性質を処理して下さるのでしょうか。それは御霊です。御霊は私たちの肉の性質･･･自己中心から派生する様々な悪癖、欲望を断ち切って下さる力を持っていますが、御言葉をよく読むなら、実際に御霊が自分に手術をしてもいいように許可をするのはこの「私」なのです。私の同意抜きに神は私の罪を処理なさらないのです。

ガラテヤ5：25「もし私たちが御霊によって生きるのなら、御霊に導かれて、進もうではありませんか。」

クリスチャンは御霊によって生きる存在であることを納得したならば自ら進んで御霊の意志に従順になることをこの御言葉は強調しています。その結果として、御霊により罪の性質が断ち切られ、御霊の実を結んで行くようになるのです。

★クリスチャンのライフスタイルは極めて実践的です。上記をしっかり理解し、心に据えて歩みましょう。